

特集

『初聖体』と『聖体の年』

五月二十九日、キリストの聖体の祝日に五人の子どもたちが初聖体の恵みをいただきました。

- ・マリア 大竹 君佳さん
- ・カタリナ 苺和 睦美さん
- ・マリア 浜 かなみさん
- ・アンナ 日置アンナさん
- ・ケン・レンゾ 山本健一郎さん

特に今年は、ヨハネ・パウロ二世前教皇が発表した「聖体の年」ということもあり、特別な日となったことでしょう。

今回は、シスター高良の寄稿と、今回初聖体を受けた子どもたちのご両親からもメッセージをいただきました。

『素晴らしいお恵み』

Sr. 高良 弘美

「キリストによって、キリストとともに、キリストのうちに…」

ミサの時この祈りが唱えられる時、わたしたちは最後のところを「すべての誉れと 栄光は世々に至るまで アーメン。」と答えています。

いつもミサの流れにそって、自然に答えていることが多いのですが、子供たちの初聖体の日は、イエスさまの存在を意識して、イエスとともに、わたしもそしてこれから初めて御聖体を受ける子供たちと、心を一つにして父である神へ栄光と賛美を捧げる喜びを感じました。

子供たちはこの日のために喜びと希望を持って初聖体をいただく日までイエス様がよくわかるように勉強してきました。あの小さな白いパンの形の内にイエス様がいらっしゃる、イエス様のお体だと信じ受け入れることが出来る様に

と祈りをこめて準備しました。子供たちはどこまで理解したかは、わかりませんが、神様のお恵みは限りなく素晴らしいもの、だれよりも一番子供たちと一緒にいたい

と願っているイエスさまです。ご聖体をうけた大きなお恵みはいつか素晴らしい実をむすぶことでしょう。

初聖体を終えて… 両親からの感想

5月29日聖体の主日に長女睦美が初聖体の秘蹟を無事いただくことができました。今はご聖体をうけた喜びでいっぱいのです。

子供を神様から授かり、親の意向で洗礼を授けました。子供が成長し、娘の口から「白いパンを私も欲しい」と言うようになりました。それは子供自身が神との関わりをもっと持ちたいという表れです。子供を幼い頃から教会へ連れていき、教会での礼儀など親として一応教えたつもりですが、初聖体を受ける勉強に関しましてはシスター、神父様をはじめ先生方にご指導いただき感謝いたしております。

親として今後も子供がもっと神に近づくことができるよう努力をし、子供の成長を見守っていきたいと思います。

(苺和)

今まで、御ミサにあずかったり、日曜学校に通っていても、親の立場からみても、半人前という感じで、本人も自覚が貧しかったと思います。しかしながら、初めてご聖体をいただいて、少しはクリスチャンとしての教会に対しての関心が強くなったのではないかと感じています。本当にありがとうございました。

(山本)